

第5章 防災啓発・教育活動

1. 第2回 外部評価委員会の開催

1. 外部評価委員会の趣旨

平成16年度から「私立大学学術研究高度化推進事業（産学連携推進事業）」に採用されている愛知工業大学の地震防災コンソシアムは、プロジェクトの3年目と最終年度の5年目に外部評価委員会を開催し、プロジェクトの評価を受けることとなっている。

本年度は、平成18年度に引き続き第2回目の外部評価委員会が開催された。

2. 外部評価委員

- ・委員長 小川克郎（名古屋産業大学 教授）
- ・委員 大野睦彦（社団法人中部経済連合会 常任理事）
- ・委員 岡嶋守（豊橋ステーションビル㈱）
- ・委員 岡本耕平（名古屋大学 教授）
- ・委員 尾針幸夫（東邦ガス㈱ 副社長）
- ・委員 瀬尾和大（東京工業大学 教授）
- ・委員 山岡耕春（名古屋大学 教授）

3. 第2回外部評価委員会の概要

- ・開催日程：2008年8月5日〔13：00～15：00〕
- ・開催場所：愛知工業大学 地域防災研究センター1F
- ・概要：外部評価委員紹介の後、正木センター長ならびに地震防災コンソシアム各メンバーより①センターの概要と活動、②研究成果等について説明、③研究内容の報告、④今後の計画について説明が行われ、それに対する委員からの質問と合議及び委員長からのコメントが寄せられる形式で開催された。
- ・評価結果：1. 実施体制の妥当性、2. 研究計画の目標達成度、3. 学術的意義、4. 社会的貢献、5. 研究成果の実用化と社会的還元、6. 外部状況の変化への対応、7. 研究の今後の方向性、8. センター活動の総合評価の各評価項目すべてにおいて、高い評価をいただいた。

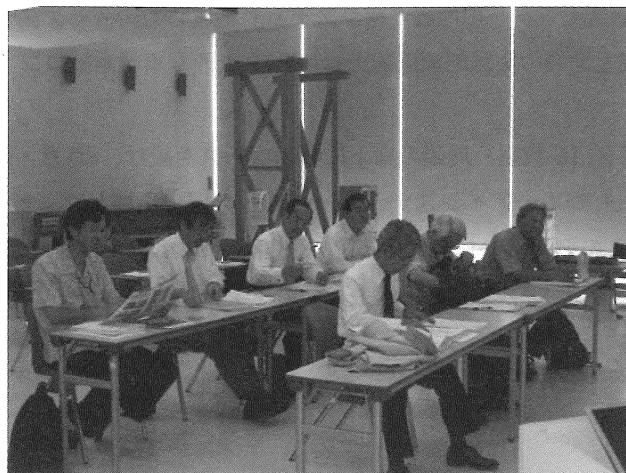


写真1 外部評価委員会の風景

2. 緊急地震速報展の開催

平成 20 年（2008 年）9 月、新建新聞社（本社長野市）より緊急地震速報展を東海地区で開催したいのでセンターに協力をお願いできないかとの要請があった。同年 7 月に、同様の展示会を東京で開催したので、関心の高い東海地域でも開催したいとの主旨であった。この要請を受けて、センターは 12 月 4 日～5 日、愛知工業大学八草キャンパスにおいて緊急地震速報の講習会及び展示会を開催することにした。以下にその概要を示す。

(1) 主催：緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海実行委員会

（NPO リアルタイム地震情報利用協議会、愛知工業大学、日本地震工学会、事業継続対策コンソーシアム）

(2) 後援：内閣府、気象庁、(独)防災科学技術研究所、愛知県、豊田市、名古屋商工会議所、(社)日本免震構造連絡協会、関西地震観測研究協議会

(3) 開催事務局：新建新聞社

(4) プログラム

○ 12 月 4 日

開会挨拶：後藤泰之愛知工業大学学長

来賓挨拶：袴着実防災科学技術研究所理事

基調講演「緊急地震速報を真の地震防災に活かすために」：地域防災研究センター客員教授入倉孝次郎

一般講演「美しく守り備える家づくり体験記」：危機管理アドバイザー国崎信江

「緊急地震速報の評判～毀誉褒貶とはまさにこのこと～」：東京電気大学教授片山恒雄

「緊急地震速報の利用に対する最新の状況について」：気象庁即時地震情報調整官松森敏幸

「リアルタイム地震情報高度化に向けた来年度の取り組みについて」：(独)防災科学研究所主任研究員中村洋光

「官民協力地震観測・利用ネットワークの構想」：NPO リアルタイム地震情報利用協議会専務理事藤縄幸雄

出展者講演「出展企業・団体 3 社による緊急地震速報システム導入・稼働事例紹介」

○ 12 月 5 日

基調講演「企業や住民を防災行動に誘導するには」：名古屋大学教授福和伸夫

出展者講演「出展企業・団体 6 社による緊急地震速報システム導入・稼働事例紹介」

一般講演「地域防災研究センターの地震情報システム」地域防災研究センター長正木和明

BCM/BCP 講座「企業と地域の実践的地震防災対策 BCP 入門」事業継続コンソーシアム顧問宮本英治

(5) 展示会

講習会会場（10 号館 2110 教室）周辺の廊下に展示ブースを設け、20 社・団体が出展を行った（気象庁、防災科研、等）。センターも(株)エーアイシステムサービスと共同で出展した。参加者は 5 日が 158 人、5 日が 131 人であった。マスコミの取材は、NHK と CBC（TBS 系）が、4 日夕方と翌朝の番組で「本格利用 1 年を経過した緊急地震速報の現状について」、入倉委員長のインタビューとともに講習会と展示会の模様を詳しく伝えた。



図1 緊急地震速報講習会・展示会ポスター



写真1 入倉教授による基調講演

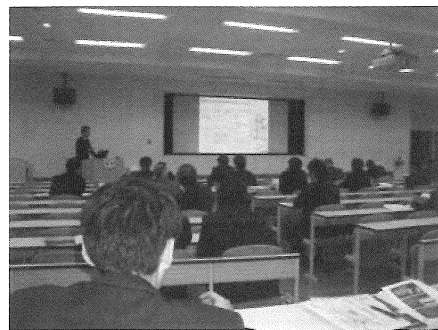


写真2 講習会風景



写真3 展示会場風景



写真4 パーティ会場風景

3. 展示会への出展

1. 建設技術フェア 2008 in 中部

平成 20 年 10 月 29 日 - 30 日 (場所: 吹上ホール)
出展テーマ: 「地震情報活用による地震防災力の向上」

2. フロンティア 21 エレクトロニクスショー 2008

平成 20 年 11 月 11 日 - 13 日 (場所: 吹上ホール)
出展テーマ: 「地震情報活用による地震防災力の向上」

建設技術フェア 2008 in 中部

いよいよ開催間近!!

10/29(水) 10:00~17:00
10/30(木) 9:30~15:30

吹上ホール

会場へのアクセス

会場内のご案内

名古屋市中区栄 栄栄ビル内 会場 http://www.horcity.nagoya.jp/sakage/

IT・エレクトロニクス技術が支える、クルマと中部のものづくり最前線

展示会
講演会・セミナー
企業・大学による
プレゼンテーション

入場無料

〈中部ものづくり産業展〉

フロンティア21エレクトロニクスショー2008

なかのモノづくり技術展2008 中部地域公設研テクノフェア2008

11/11(水) 11:00~13:00
11/12(木) 11:00~13:00

吹上ホール

特別講演会のご案内 (要予約)

11/11(水) 11:00~12:00
11/12(木) 11:00~12:00

3. 緊急地震速報 講習会・展示会 2008 東海

平成 20 年 12 月 4 日 - 5 日 (場所: 愛知工業大学)
出展テーマ: 「地震情報活用による地震防災力の向上」

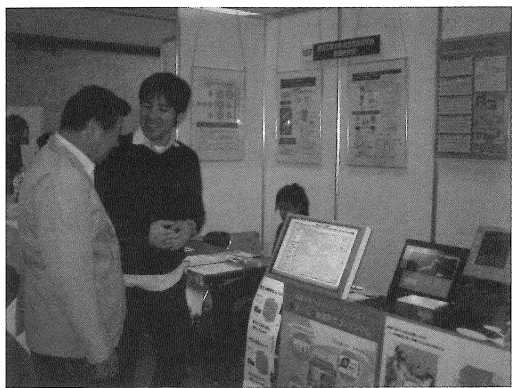
緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海

緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海

12月4日(水) 10:00~17:00
12月5日(木) 9:30~15:30

愛知工業大学

緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海



4. センター展示物について

地域防災研究センターの1階にある拠点形成技術支援室では、防災に関する展示物や各種の装置によって、防災に関する学習・体験をすることができます。本センターは、設立から4年程度経っていることから、本年度では展示物のリニューアルを図りました。

・断層はぎとりの展示

本センターの入り口には、断層はぎとり断面を展示しています(図1)。この展示は岐阜県東部を走る活断層、阿寺断層のもので、この阿寺断層の活断層調査は、廣内ポスドク研究員(現信州大学)と安江客員研究員らにより精力的に行われており、調査の報告は本センター年次報告書 Vol.3 に詳細が書かれています。

中央の赤いドットが活断層であり、5層から2b層までを変位(食い違い)させる様子がわかります。2b層上位の2a層も撓む変形を受けていますが、1b層と1a層はこれを素直に覆います。したがって2a層堆積以降、1b層堆積以前に阿寺断層が活動し、地面の食い違いが生じたことがわかります。地層中に含まれる木片や炭の年代を測定した結果、1b層の年代は約300年前、2a層の年代は約2000年前でした。このことから最後の断層活動は、現在から約2000年前以降、約300年前以前に活動したと考えられます。活断層調査では、このような方法から過去の最新活動時期、活動間隔を調べ、次の活動が迫っているのか、しばらく安全なのかを調査していきます。

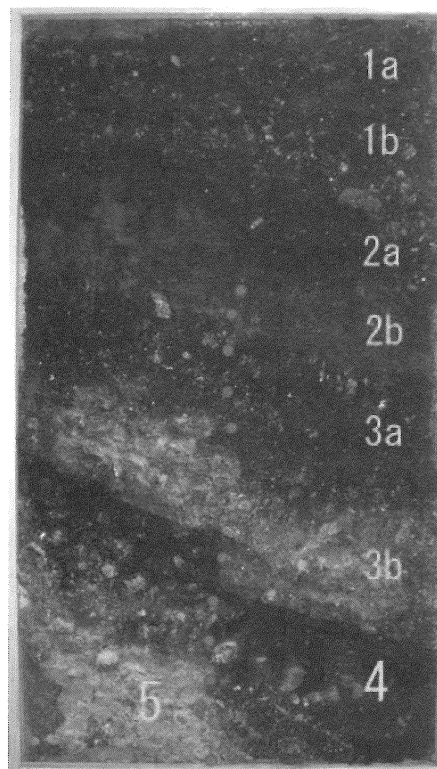


図1 活断層の剥ぎ取り断面

・緊急地震速報デモンストレーション

緊急地震速報のデモンストレーションが実施できるよう、パソコンと緊急地震速報提供機器 FTE (パトライト社製) が設置してあり、緊急地震速報が配信されたと同時に、対象地点における予想震度、S波到達までの猶予時間に加えて、リアルタイムでP波とS波伝播の予想円が表示される画面を見ることができます。また、キャンセル報の場合や緊急地震速報の第n報で制御した場合のデモンストレーションも行うことができます。

本センターのシステムでは、ユーザー側で地震の規模、震源位置を任意に設定できるものもあり、過去の歴史地震や、将来発生が危惧される地震についても震源規模や震源位置のデータがあればその地震に対する緊急地震速報のデモンストレーションが実施できます。



・地震防災対策室のジオラマ

拠点形成技術支援室の中には、全国に事業所を持つ会社をイメージした防災対策室のジオラマを展示してあります。防災対策室では、自社の被害状況や社員の安否確認、電気や水道の供給の有無の確認、さらには復旧に向けての検討が行われます。その初動体制に必要と考えられるものを設置してあります。

ここでは、パソコンを4台設置しており、1. 緊急地震速報の画面、2. 各事業所における予想震度の画面、3. 安否メールを制御できる画面、4. 対策室にいる人が行動すべき情報を示す画面を表示させています。

机には、企業の敷地や建物の見取り図を用意して、避難場所や危険場所、消火器などの避難等に必要な情報をわかりやすく提示してあります。

対策室の壁には、中央防災会議等で提言されている、東南海地震や猿投高浜断層帯による地震の予測震度分布や被害想定などを見やすく設置してあり、常日頃から地震が発生した場合にどのような状態になるのかを想像し、対策を考えるような工夫をしています。

・工場の避難訓練

拠点形成技術支援室の奥には、工場内における緊急地震速報による避難デモンストレーションを行える展示がしてあります。工場では、効率よく製品生成をできるためにさまざまな機器や棚が所狭しと並んでいるところが多く、地震動による機器の転倒により作業員が負傷する可能性があります。ここでは、機器に囲まれた状態で、緊急地震速報の情報が配信された場合、何秒で機器等を最低限の安全操作を施して退避場所に逃げられるのかを体験できるデモンストレーション装置をしてあります。

ここでは、1、電動ドライバーを動かないように固定する、2、機器の電源を切る、3、機器の緊急停止ボタンを押す、の操作をした後、数m離れた退避場所に移動できるかを実感できるようになっています。



5. 緊急地震速報を活用した第3回避難訓練の実施

1. 緊急地震速報を活用した避難訓練の概要

本学は全国の大学に先駆けて緊急地震速報を活用した避難訓練を平成18年12月14日に実施した。この訓練は気象庁との共同実験として位置づけられ、マスコミ等にも大きく取り上げられた（平成18年度年次報告参照）。この実験により避難訓練の実用性が検証されたため、平成19年2月1日より緊急地震速報を導入し、これを活用した避難システムを実装した。平成19年10月30日には第2回目の訓練を実施した。

これら2回の訓練を通していくつかの課題が明らかになり以下の改善が図られた。

屋外スピーカーでは緊急放送が聞き取りにくいとの指摘に対するため、全教室および建物の各階廊下の両脇にスピーカーを設置した。

サッカー場へ避難する時、避難路が混雑し危険であるとの指摘に対し、避難路の拡大を図った。

防災設備の充実を図るため、AED設置、防災倉庫の設置を行った。

学園全体の防災体制を検討する「学園防災会議」が設置されたことから、大学に加え、学園全体が参加した避難訓練の実施を検討した。

平成19年度は、名古屋電気学園全体で実施することとなり、愛知工業大学（八草キャンパスおよび本山キャンパス）、名電高校、愛知工業大学附属中学校、愛知工業大学情報電子専門学校も緊急地震速報を配信し、避難訓練を実施した。

2. 実施日時・体制

日時：平成20年12月11日（木） 11時30分～12時30分（雨天決行）

体制：学園対策本部を本部棟理事長室に設置し、各付置校からの避難状況の報告を受ける。

大学緊急対策本部を地域防災研究センターに設置し、避難状況を把握する。

3. 避難訓練実施内容

11時30分 避難訓練開始の説明放送

11時35分 防災放送（サイレン及び放送）により退避行動をとる。

11時36分 防災放送により避難行動を開始する。

○大学内における避難場所：サッカー場

集合確認：集合の確認は、学生、教職員はバーコードリーダー及び人数の確認を行い、厚生施設関係者等は人数の確認を行う。

（ア）学部生は、各専攻主任が指名した教員がバーコードリーダーによる確認を行い、人数の確認は主の指導教員が行う。※バーコードリーダーによる確認は、学部1年次のみとします。

（イ）基礎教育センター、総合技術研究所の教員、技術職員、事務職員は、工学部事務長がバーコードリーダーによる確認を行い、基礎教育センター課長が人数の確認を行う。

（ウ）厚生施設関係者、その他学内に滞在する者は経営情報科学部事務長が人数の確認を行う。

○学園対策本部への報告

各設置校も同時に行い、学園防災対策本部に状況を報告する。

○負傷者の搬送と救護

- ・負傷者を想定した搬送と救護の訓練を実施
- ・2～3名を対象として、救護場所まで担架で搬送する。
- ・AEDの実施テスト、応急措置の訓練

○参加者数

大学八草キャンパス：3,024人（避難場所集合した学生、院生、教職員数）

大学本山キャンパス：20人

名電高校：1,583人

付属中学：561人

専門学校：90人

※学園全体：5,278人

※大学全体の在籍学生・院生数：5,962人

4. 学外からの見学者へのアンケート

前回に引き続き学外からの見学者として緊急地震速報配信企業から2社、愛知県内11大学関係者30名に加え東北地域から1校が参加された。他大学関係者には避難訓練後、地域防災研究センターの緊急地震速報システムの紹介を行うとともに今回の避難訓練についてのアンケートを行った。以下にアンケート結果を示す。

避難訓練見学理由

- ・本学の防災体制整備に参考・活用したい
- ・3000人規模の訓練状況を把握したかった
- ・本学がおこなっている防災訓練の見直しの参考とするため

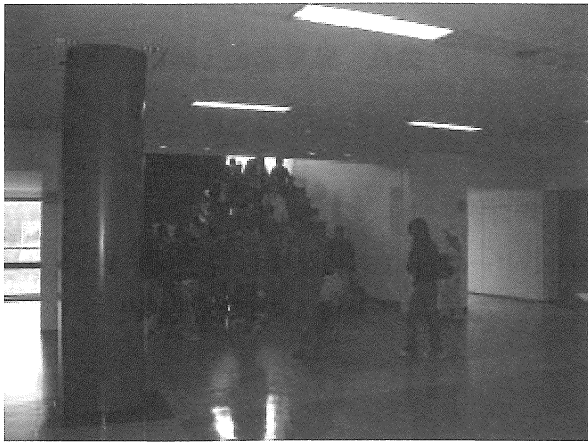
避難訓練全般に関する感想

- ・全学規模で実施できることはすばらしいと思う
- ・点呼後のことが気になった
- ・大学全体学園全体の取り組みとして定着していると感じた
- ・避難していない学生に対する指導はどのようにしているかが知りたい
- ・訓練のスムーズな進行など事前準備の徹底が感じられた

5. まとめ

避難訓練も3年（3回）を終了し着実に成果を上げつつある。特に、放送設備の充実が図られたこと、学園全体で防災体制が整った事の意義は大きい。他大学関係者の話では、複数のキャンパスや複数の学部を有する大学では、学内の意思統一や訓練実施体制が整わないなどの悩みが聞かれた。この点、本学は3年間で学園全体の体制が整備されたことは高く評価できる。訓練では、八草キャンパスにおける予測震度で設置校の訓練も実施したが、八草キャンパスは地盤条件が良いために震度が他の設置校に比べ低く予想される可能性がある。八草キャンパスでは避難実施震度閾値である5弱以下であっても、設置校ではこれ以上になる可能性がある。この問題を解決するために、設置校毎の震度を予測するシステムを導入した。

避難場所への誘導看板は建物外に設置済みであるが、建物内（教室・研究室・廊下）に避難経路図を設置した。また、学生寮および食堂の耐震補強工事も終了した。学園の規程も制定した。各設置校のマニュアルも修正し、充実された。学園防災会議、大学対策室会議は2ヶ月に1回程度開催されており、訓練に関しては合同会議を開催している。これらの活動を通じて、学園および大学の防災体制は整いつつある。



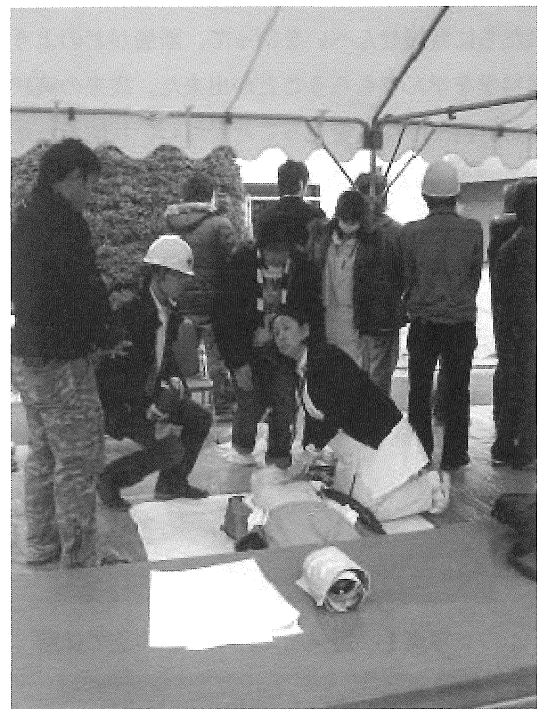
建物内における避難の様子



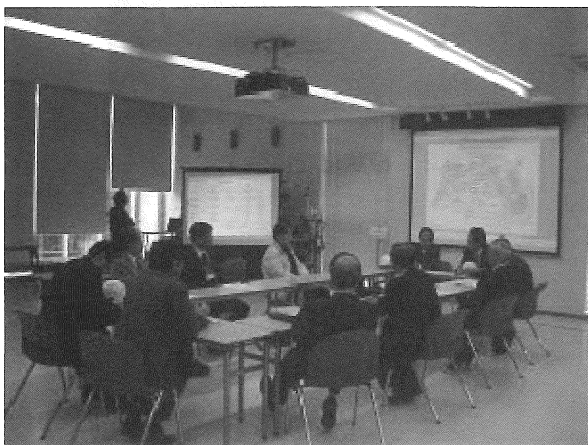
建物外における避難の様子



大学内における避難場所：サッカー場



AEDの実施テスト、応急措置の訓練



大学緊急対策本部（地域防災研究センター内）

6. 学生ボランティア「アイテックス」活動報告

会長 弘重忠俊・顧問 正木和明

平成 21 年度は引き続き、大学行事への参加、大学コンソシアムせとによる「大学生によるまちづくり活動応援助成金活動を行った。以下にその概要を示す。

(1) オープンキャンパスへの参加

2008 年 7 月 20 日（日）に愛知工業大学の地域防災研究センターにて、高校生を対象にしたオープンキャンパスで支援スタッフとして参加した。緊急地震速報の説明と自走ぶるるにより兵庫県南部地震を体験してもらった。

(2) 愛工大まると体験ワールドへの参加

2008 年 8 月 2 日（土）に愛知工業大学の地域防災研究センターにて、小 1～4 年生を対象にした体験ワールドで支援スタッフとして参加した。自走ぶるるによる兵庫県南部地震の体験と、ダンボール板で簡易避難所を作り、避難生活を体験してもらった。液状化実験ボトルと紙ぶるるの作成および断層せんべいの配布を行った。子供たちに断層せんべいを割って、断層がどのように動くのかを考えてもらった。お菓子を食べて、楽しみながら自然科学を学んでもらうことが出来た。従来の液状化実験ボトルは、ペットボトル内の水が茶色に濁ることが問題点で、内部の様子を見ることが難しい状態だった。これを改善するために珪砂を使用した。珪砂は水晶と同じ成分でできていて白あるいは透明な砂で水が茶色になりにくい。また、珪砂 5 号（粗い粒）と珪砂 7 号（細かい粒）を一对一で混ぜることによって、水に浮いている時間を短くした。



写真 1 避難所間仕切り組み立て体験

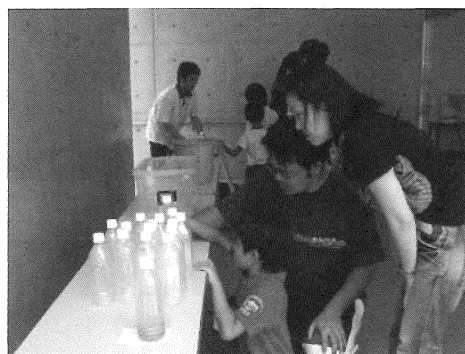


写真 2 液状化を体験する

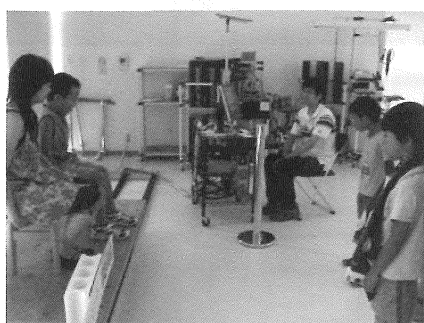


写真 3 震動台で地震体験

(3) 市民交流フェスタ 2008in パルティせとへの参加

2008 年 10 月 11 日（土）にパルティせと内で開催された交流フェスタ in2008 にブース出展した。手回しぶるるによる構造物模型の振動実験および、液状化と地震の発生メカニズムを説明したパネルを展示した。また、ブースに来た人の性別と年代を調査した。殆どの年代で男性より女性の方が多かった。防災すごろくと断層せんべいを配布した。

7. 公開講座

愛知工業大学本山キャンパス公開講座での「地域防災研究センター講座」は20年度で3年目を迎えた。このシリーズは、春と秋に分かれて行われている。今年度は以下の講座を開催した。

1. 20年度春季講座

緊急地震速報に対する関心が高まりつつことから、従来の市民一般に対する講座だけでなく企業関係者をも対象とした講座を開催した。

◎緊急地震速報の活用（講師：正木和明地域防災研究センター長）

7月5日（土） 13:30～15:00 「家庭での活用方法は？」

7月19日（土） 13:30～15:00 「職場での活用方法は？」

2. 20年度秋季講座

センターで実施した体験ワールド（親子参加行事）が好評で有ったことから、本山キャンパスにおいて開催した。

◎親子講座：親子そろって地震を科学しよう（講師：正木和明地域防災研究センター長）

10月25日（土） 10:00～12:00

図1 本山キャンパス公開講座案内トップ

図2 春季講座案内

図3 秋期講座案内

8. 小学校見学会・親子体験教室

1. 保見学区4小学校防災研究発表会

地域との連携を図るため、近隣の小学校と地震防災に関する合同研究会を開催した。内容は、小学校校区の地震時における通学路の危険箇所を6年生児童が現地調査を行い、その成果を持ち寄り、大学の施設においてそれぞれの成果を発表するというものである。第1部の4校の発表に対しては防災専門家としてアドバイスをを行った。また、第2部として防災活動団体の協力の下に、避難所における非常食の試食体験を行った。

開催日は平成20年6月28日(土)9:30～13:30、開催場所は愛知工業大学地域防災研究センターで、参加者は保見地区4小学校の代表児童30名と学生ボランティアを含むスタッフ等40名、計70名程度の参加があった。



写真1 4校による発表風景、右下は非常食の試食風景

2. 体験ワールド

平成20年(2008年)8月2日に、大学主催の親子参加型の催しものである「まるごと体験ワールド」が開催され、センターもこれに参加した。テーマは「地震を体験しよう」とし、対象者は小学校1年生～4年生で、親子・兄弟も参加できる形式とした。約20組、40名の参加があった。全体を5組に分け、震動台による地震体験、センターが配信する緊急地震速報をPC画面で体験、断層剥ぎ取りパネル説明、ペットボトルを用いた液状化実験、センター建屋の免震装置見学、避難所間仕切りパネルの組み立て、手回しブルルによる建物震動実験、の各メニューを回りながら地震防災について勉強してもらった。



写真2 センター長の挨拶

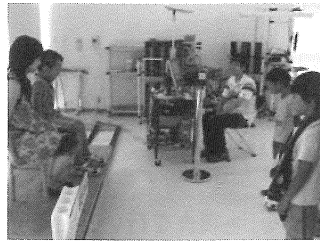


写真3 震動台体験

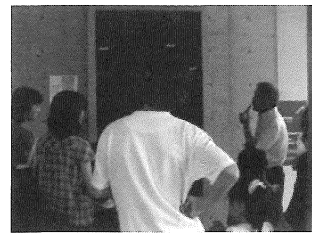


写真4 断層パネル説明

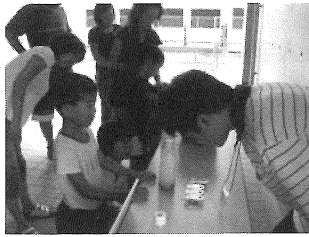


写真5 液状化実験



写真6 手回しブルル実験



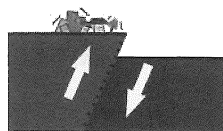
写真7 間仕切りパネル

3. 子供向け教材「断層せんべい」の作製

(独) 日本原子力研究開発機構東濃科学センターの安江健一研究員が作製した阿寺断層せんべいをヒントにセンターオリジナルの「断層せんべい」を平成20年(2008年)8月に作製した。写真■に示すように、せんべいには地層断面が示され、地下部に鯰が、地表部には愛知工業大学が描かれている。地層を横切る断層線に沿って割り、少しずつ断層運動(逆断層、正断層)を理解できるよう工夫がなされている。体験ワールドに向けて開発され、当日配布され好評を得た。せんべいはその後、センター見学会、講演会、会社訪問の土産、高校生見学ツアー、などにおいて配布され、21年3月までに約4,000枚が焼かれた。

断層せんべい

点線に沿って割ってわる
矢印の方向にずらす
地層のずれを確認



上盤が上に向かってずれたのが逆断層です

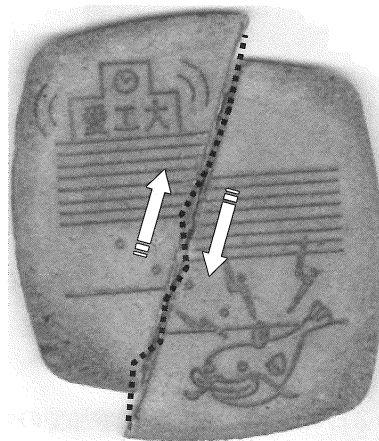


写真8 断層せんべいと説明書

9. 平成20年度マスメディア取材

新聞等 掲載一覧

2008年5月20日	愛知工業大学「産学連携機構」を設置 学内情報を一元化 企業へのアピール強化	愛知工業大学は、学内に「産学連携機構」を設置した。	中部経済新聞
2008年6月5日	「地震速報」の活用事例紹介	危険物安全週間で豊川市消防本部 正木氏招き講演会	東愛知新聞
2008年8月3日	学内ベンチャー 商品は「防災」	学内ベンチャーを立ち上げた西村 研究員の取組みを掲載	読売新聞
2008年10月24日	要援護者をデジタル管理	地震などの災害時に支援を必要とする 高齢者や障害者の情報を集約した「要 援護者台帳」を、パソコン上の地図に 結びつけてデジタル管理する動きが 始まり、注目が集まっている。西村 客員准教授のコメント掲載	読売新聞
2008年11月19日	予測震度の誤差解消 東南海地震		読売新聞
2008年11月20日	企業向けに地震情報	愛工大発学内ベンチャー企業「株式 会社 エーアイシステムサービス」が 本格稼動した。	中部経済新聞
2008年11月20日	学内ベンチャー企業 新防災システム紹介	学内ベンチャー企業「エーアイシ ステムサービス」の設立披露会が 19日、同大で開かれ、企業や大 学関係者ら約80人が参加、主力 商品の新防災システムなどが紹介 された	読売新聞
2008年11月25日	緊急地震速報講習会・ 展示会 2008 東海	愛知工業大学で開催した緊急地震 速報講習会・展示会について掲載	リスク対策.com 新建新聞社
2008年11月30日	ピンポイント地震速報	愛知工業大学地域防災研究セン ターで工場などにピンポイントの 緊急地震速報を提供する防災コン サルティング会社「エーアイシ ステムサービス」を設立した。	朝日新聞
2008年12月12日	地形配慮、予想震度 を送信	愛知工業大学はじめての大学発ベ ンチャー「株式会社エーアイシ ステムサービス」が紹介されました。	日刊工業新聞
2009年02月08日	防災で地域の一員に 「顔見知り増やし 楽しいまちづくり」	あいぼう会運営委員の早川様の防 災に対する取組みが紹介されまし た	中日新聞

テレビ・ラジオ放送一覧

放映日	番組名	内容	放送局
2008年5月14日 18:17-19:00	UP!	中央防災会議から発表された猿投高浜断層の被害予測について正木教授のコメントが放送されました。	メーテレ
2008年7月22日 17:30-17:54	東海テレビ スーパーニュース	巨大地震の可能性 猿投 - 高浜断層を検証 にて廣内客員研究員がコメントいたしました。	東海テレビ
2008年7月28日 18:10-19:00	ほっとイブニング	地域防災研究センターと東海理化株式会社様の共同で取組む企業防災について放送されました。	NHK
2008年9月5日 22:00-22:50	NHK スペシャル 活断層地震の脅威	廣内客員研究員が出演いたしました。	NHK
2008年12月4日 16:50-18:55	イッポウ	12月4日に愛知工業大学で開催された緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海の様子が放送されました。	CBC
2008年12月4日 18:10-19:00	ほっとイブニング	12月4日に愛知工業大学で開催された緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海の様子が放送されました。	NHK
2008年12月4日 20:45-21:00	ニュース 845 東海	12月4日に愛知工業大学で開催された緊急地震速報講習会・展示会 2008 東海の様子が放送されました。	NHK
2008年12月11日 18:10-19:00	ほっとイブニング	12月11日に愛知工業大学で行われた 第三回緊急地震速報を用いた避難訓練の様子が放送されました	NHK
2008年12月11日 20:45-21:00	ニュース 845 東海	12月11日に愛知工業大学で行われた 第三回緊急地震速報を用いた避難訓練の様子が放送されました	NHK
2009年1月24日 11:00-12:00	SANQ MORNING	番組内で正木教授が東海・東南海地震について、我が家の地震対策、緊急地震速報についてお話ししました。	尾張東部放送